


業種	業界団体(飲食業界特殊法人)
活用分野	鮮魚仕入れ業務
テクノロジー	ビデオ通話アプリケーション
端末	タブレット 

iPadで鮮魚仕入れの新手法を構築 産地との直接交渉をビデオ対話で実現

東京都内の飲食店経営者約1万人が加盟する東京都飲食業生活衛生同業組合は、iPadを使って岩手県大船渡市の漁師からFace to Faceで鮮魚を仕入れる仕組みを構築。2013年12月から運用を開始した。

仕掛け人は、同年6月に理事長に就任した原田啓助氏。吉祥寺で和食店を経営し、自らの店舗にiPadによるセルフオーダーシステムを導入して成果をあげ、MCPC award 2013の特別賞を獲得している。

組合でのiPad導入は、「飲食業界の後継者問題の一因である労働時間の長さを多少でも緩和するため、早朝から出かけなければならない鮮魚の仕入れ作業を効率化しようと考えたのがきっかけ」と原田氏は話す。さらに東日本大震災の被災地を視察し、東北復興の支援にもなればという想いが加わった。

標準のアプリをそのまま利用 クラウド上に簡易予約表も作成

「鮮魚仕入れシステム」は、東京の組合員と大船渡の漁師がそれぞれiPadを持ち、標準装備のビデオ通話

アプリ「FaceTime」を使って、漁で獲れた鮮魚の映像などを交えながら仕入れ交渉を行うというもの。双方のコンタクト時間を合わせるために、「Google Drive」のスプレッドシートも用いて予約表を作成し情報共有している。

端末とモバイル回線の提供は以前から付き合いのあるソフトバンクに依頼。組合で一括契約して利用者に貸し出している。

まずは端末30台を用意し、組合の幹部を中心に配布。2013年9月からiPadそのものに馴染んでもらうための試用を3カ月間実施したうえで、システム運用を開始した。

仕入れの時間・コストを削減 希少商品が手に入ることも

組合員の鮮魚仕入れは通常、東京都中央卸売市場(築地市場)で行われる。産地から市場・仲買人を經由するため、水揚げから3日程度を要し、仲介手数料も上乗せされる。

しかし「鮮魚仕入れシステム」を利用すれば、市場よりも安価な仕入れ値で、水揚げされた翌日に新鮮な魚



東京都飲食業生活衛生同業組合
理事長
原田啓助氏

が手元に届く。仕入れのために早朝から出かける必要もない。

また、産地ならではの商品や情報を手に入れることができる。原田氏は、「市場になかなか出回らない魚が獲れたと画面で見せてくれたので仕入れてみたところ、非常に美味しくお客様にも好評でした」と話す。

もちろん、仕入れたい量や品種を考えると、現実的には築地市場との併用になるが、産地直送という謳い文句や珍しい魚を使った日玉料理は、店の運営にプラスとなることは間違いない。

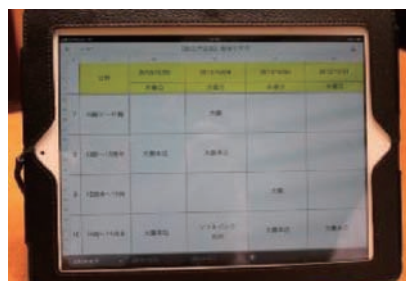
端末を利用する組合員は年齢層が高く、操作に対する戸惑いも少なからずあるという。そこで実運用においては、スプレッドシートへの予定入力を利用組合事務所の職員が代行するという支援も施している。

さらに、システムの利用促進も狙ってiPad講習会を毎月開催し、基本操作のレクチャーや各種機能・アプリの紹介を行っている。

「まずは30人の利用頻度をもっと高めて、利便性に対する認識を広めてもらい、端末を100台200台と増やしていきたい」と原田氏は意気込んでいる。



鮮魚仕入れ時のiPad画面



仕入れ予約管理の様子

Profile

東京都飲食業生活衛生同業組合 http://www.touinshoku.or.jp/	本社所在地 東京都中央区築地6-20-6 中央卸売市場第2低温ビル316号	事業内容 東京都内の飲食店(組合員)に対する支援活動(生活衛生法に基づく特殊法人)。現在101支部を擁している
	設立 1934年6月	